

学校教育目標	夢に向かって自ら学び、心豊かで、最後まで頑張り通す子どもの育成
育成を目指す資質・能力	自ら問題を見つけ、友だちと協働して解決する力の育成(問題発見・解決能力)

	学力状況について	学習状況について
児童生の課題	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 ・「知識・技能」では、学校や家庭での反復学習により一定の定着が見られるが、継続が必要である。 ・「思考・判断」では、「知識・理解」や既習を活かして課題解決したり、問題の意図を正確に読み取って解答をしたりすることを苦手とする児童が多い。	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 ・単元や領域によって、理解度に偏りがある。また、ミニテスト等ではよい結果を出せても、単元のまとめ、自分の考えを書くといった内容になると、到達点に至らない児童も多い傾向にあるので、学習内容を関連付けて考える力を育てる必要がある。 ・問われていることの意味が分からない児童や無回答の児童も多く、語彙力を鍛える必要がある。
	これまでの学力向上の取組に対する児童生徒の状況(授業及び授業以外の側面から) ・板書に沿ったノートの取り方、学びの跡が分かるノートの書き方については指導が必要である。 ・授業中、自分の考えをもつことはできるが、伝えることの積極性には偏りがある。	
指導の状況	1 組織的な授業改善の取組状況 ・1時間完結型の授業の徹底。 ・児童が「解決したい」と思うような課題を設定し、授業を展開していく。 ・学習規律の徹底。「今月の学習のめあて」に学校全体で取り組む。 2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況 ・朝のチャレンジタイムを使って、全校で「数と計算」領域の復習を行ってきた。特に低学年では百ます計算や九九暗唱など四則計算に力を入れている。また、高学年では習熟度別指導により、低学力層の底上げを図っている。 ・「滝尾っ子ノートのきまり」をもとにしたノート指導の徹底。及び「滝小ノート検定」を実施。(年1冊以上チャレンジ)	

学力に関する達成指標

- ・全学年、単元末テストで平均86点以上にし、平均60点未満の児童を5%以下にする。
- ・学校評価に係るアンケートにおいて、「授業が終わった時に、分かった・できたという気持ちになっている」という質問に、肯定的に答える児童の割合を93%以上にする。

